

**高野伸生委員** 自民党の高野です。最後の質問者となります。

先ほど柳本委員のほうから、大阪市の理事者の皆さん、大変疲れておられるということですが、まだもう少しの時間おつき合いいただきまして、また市会議員の皆さんもお疲れでございますけれども、よろしくおつき合いをお願いいたします。

まず、大阪城の魅力向上について質疑をいたします。

初日も村上委員のほうから大阪城の魅力について質疑がありました。私も平成 23 年の予算委員会で、この天守閣、当時復興 80 周年の年でもございましたけれども、公と民が連携して魅力向上を図るという、そういう質疑をさせていただきました。

その中で、まずことし 6 月に、賛否両論はありましたけれども、大阪の都市魅力の発信という旗印のもとで、西の丸庭園で行われましたフリースタイル・モトクロス、この世界大会について、大阪市としてどんな効果があったのか。また、心配されていまして大阪城の遺構への影響はなかったのか。その結果についてお伺いいたします。

**合田経済戦略局観光部大阪城魅力担当課長** お答えいたします。

ことしの 6 月 1 日に大阪城西の丸庭園で開催されましたフリースタイル・モトクロスの世界大会は、満員となる約 1 万 1,000 人の観客を集め、無事終了いたしました。大会の様子は、インターネットで世界に配信されるとともに、アメリカやフランス、韓国など世界 27 カ国、196 の番組でニュースなどとして放映されたと報告を受けております。このようなことから、これまで大阪城や大阪のことを知らなかった海外の方にも知っていただく機会になったと思っております。

また、当初心配されておりました地下遺構への影響につきましては、主催者による地盤調査の結果、問題がなかったことを確認し、その旨、文化庁にも報告されています。以上でございます。

**高野伸生委員** ひとまずは地下遺構への影響はなく、無事終了したとのことで、大変安心をいたしておりますが、大阪城には、やっぱり本来、大阪城にしかない、その歴史に培われた本当の魅力というものがあるわけでございまして、きょう質疑するのは、この本当の魅力というのをいかに向上させていくかということです。

その歴史・文化の魅力を正しく伝えてこそ、全国で注目されているお城でありますから、いわゆる歴史の積み重ね、重層性、こういうことを我々大阪の人間として真剣に考えていかなければやっぱりだめだと思っております。

まず、実地調査いたしました大阪城ですけれども、秀吉が天下統一の拠城とした豊臣期、ま

たその後、江戸幕府になってからの徳川期の大阪城、そして明治維新の軍事拠点であった近代的な歴史遺産、こういう本当に歴史の積み重ねが、この大阪城一帯にちりばめられているというんですか、そういう観点からこの魅力向上を考えていかなければならないと思います。

そこで、大阪城の歴史・文化の認識と今回の豊臣石垣公開プロジェクトの概要についてお伺いいたします。

**合田経済戦略局観光部大阪城魅力担当課長** お答えいたします。

大阪市では、貴重な文化遺産である特別史跡大坂城跡の価値を明らかにして、次の時代に確実に伝えるため、学識経験者の意見を踏まえ、ことし3月に特別史跡大坂城跡保存管理計画をまとめ、さまざまな時代の歴史遺産が残っている城郭遺跡の価値を明らかにするとともに、過去の調査で確認された豊臣期の石垣についても、徳川期の遺構の適正な保存を前提に公開展示する方針を示しております。

豊臣石垣公開プロジェクトは、昭和59年に偶然発見され、調査後埋め戻され、今も本丸地下に眠る豊臣秀吉が築いた初代大阪城の石垣を再び掘り起こし、大阪城の特徴である歴史の重層性を感じていただける新たな観光スポットとして公開施設を整備する事業です。

現在、施設の整備に先立ち、遺構の状況を把握するため、ことしの7月から本格的な遺構調査を開始しております。以上でございます。

**高野伸生委員** 資料の配付をお願いします。

**木下誠委員長** 高野委員より、質疑の参考に資するため資料の配付の申し出がありますので、これを許します。

**高野伸生委員** 先般、実地調査におきまして、豊臣の石垣の遺構調査を進めている地域を、この屋上から視察することができました。これを見て、ほとんど加工されていない自然の石を積み上げた豊臣期の野面積みというんですか、こういう石垣。それと、皆さん御存じのように、小豆島などから切り出された大きな石垣。これが徳川期のいわゆる天守閣に使われた石垣ですね。この2つは、やはりこの天守閣の違い、相違、そういったものを模型とかジオラマを使って、大阪城の歴史の重層性をさらに知ってもらうために、史実として興味深いものを展示しなければならぬんじゃないかと思えます。

この石垣公開施設を整備するために4月から始めている募金でございますけれども、目標金額5億円ということでやっておられます。実は平成20年に熊本城で同じような城郭のそういう復元計画がありまして、やぐら、あるいは門、そしてまた周辺のこういう石垣の遺構調査もありました。これを入れて約7億円の募金を集めたということでございます。

そこで、このプロジェクトの今後の取り組みについて、今どんな状況になっているのか。また、この募金の状況もあわせてお聞かせください。

**合田経済戦略局観光部大阪城魅力担当課長** お答えいたします。

4月から始めました太閤なにわの夢募金については、この半年間で約1,600件、5,000万円の御寄附をいただいておりますが、事業の進捗のためには、まだまだ市民の皆さんの御協力が必要な状況です。

また、公開施設の整備に向けては、文化庁と協議しながら遺構調査を継続し、委員御指摘のように大阪城の特徴である歴史の重層性を体感いただける場所となるよう、石垣を単なる遺構として展示するだけでなく、模型や映像を使って戦国時代の記憶を物語る、本物の石垣の魅力を最大限に生かした展示計画や施設計画の検討を進めてまいりたいと思っております。以上でございます。

**高野伸生委員** 資料にございますように、このときに熊本城は222万人の人が城郭に入場しております。全国で1位になりました。実は、前年の平成19年の熊本城の入場者数は120万人でしたから、このいわゆる熊本城の復元の展示で一遍に100万人ふえたんですね。やはり今回の豊臣石垣公開プロジェクト並びに2014年、2015年のいわゆる大坂の陣400年というイベント等を通じて、やはりもう少し飛躍的に大阪城の入客数をふやすことができるんじゃないかなと私は思います。

そこで、この石垣公開の関連イベントももっとたくさんつくっていったらどうかと。大阪城天守閣だけやなしに、周辺にいっぱいいろんな大阪城にまつわる歴史スポットがあるわけでございます。例えば真田幸村の関係でいえば、三光神社という神社があります。ここがいわゆる真田の出城であった神社でございますが、抜け穴が見られます。それと安居神社、これは真田幸村が亡くなった神社ですね。天王寺区にあるわけです。それから茶臼山、これは徳川方が陣を張ったと。こういう一つのスポットめぐりを行政がいろいろ企画して市民に参加してもらえるような、これはウォーキングでもいいですし、また観光バスでも結構ですけれども、そういう歴史ツアーめぐりをやってリピーターをどんどんつくっていくということは非常に大きな大阪城の魅力向上につながるんじゃないかと思っております。

民間会社が、いろいろ今、大坂の陣400年のプロジェクトで企画しているそうなのですが、これはあくまでもイベントです。侍テーマパークとか、何か食の陣とか、光やとか、イベントを何か考えているそうですけれども、これは海外の初めて来た人は何か喜ばれるかもわかりませんが、本当の魅力というのは、今申し上げた歴史スポット、歴史としての重層性を感じる展示方法じゃないかと思っておりますが、いかがでしょうか。

**長瀬経済戦略局企画部都市魅力戦略担当課長** お答えいたします。

2014年は、大坂冬の陣から400年、2015年は大坂夏の陣から400年に当たる年でございます。この両年に大阪城や大坂の陣に関連する事業やイベントを民間企業のアイデアと投資を入れつつ集中的に開催し、大阪の魅力を発信する大坂の陣400年プロジェクトを実施いたします。

大阪城公園内においては、大阪城や大阪の歴史の深さを体感できるイベントを核に、食、光、音楽なども盛り込んだ多くの方々に楽しんでいただけるイベントもあわせて展開してまいります。その際には、委員御指摘のように単なるお祭り騒ぎで終わらせるのではなく、例えば大阪市内に点在する真田幸村ゆかりの地を結ぶ旅行商品の開発につながるよう、また大阪城を核として、府域エリアはもちろん、大阪府域外にも数多く存在する大坂の陣ゆかりの地からも参加いただけるよう取り組んでまいりたいと考えております。

なお、この間、委員お示しの真田幸村ゆかりの地である長野県上田市、和歌山県九度山町を初め、黒田官兵衛ゆかりの地である滋賀県長浜市などとの事業連携も検討し始めたところでございます。以上でございます。

**高野伸生委員** 最近、歴女という言葉をよく聞きます。本当に若い女性の方が、こういう歴史ファンがふえているんですね。NHKの番組でも「歴史秘話ヒストリア」とか人気番組でございますけれども、真田幸村のこういう安居神社で5月5日に慰霊祭がございます。東京から20人ぐらいの若い女性がやっぱり見に来ているんですね。こういうことをもっと広めていくために、さらに大阪城自体の周辺のこと観光政策として深めていけるんじゃないか。

これは私の提案ですが、例えば大阪城の周りに、この間も実地調査しましたけれども、堀があるんですけれども、この堀が、今は使っていないところもありますけれども、水はこのずっと北側のほうにあるみたいです。ここに、例えば水をしっかり入れて、屋形船と言うんですかね、そういう昔の船で回遊できるような観光施策もおもしろいんじゃないかなと。というのは、隣が大川ですから、また中之島ですから、水都大阪の観光政策とも合致できるんじゃないかなという気もいたします。

それから、そういう民間会社のイベントだけじゃなしに、豊臣秀吉というのは、お茶が非常に好きな方でした。大茶会、西の丸庭園で、赤い毛せんをいっぱい敷いて、モトクロスじゃなくて今度は大茶会をやってもらったらどうかなと思ったりもしています。

また、夜には薪能をやったり、やっぱり日本古来のこういう伝統行事をもっと全国のファン、あるいは海外の人にも知ってもらおう努力をしていただきたいということです。いかがですか。

**伊東経済戦略局都市魅力戦略担当部長** お答えいたします。

ただいま委員からさまざまな御提案をいただきまして、ありがたく存じます。

御指摘のように、大阪城では、これまでもお茶会や薪能など大阪城の歴史や文化を生かし

ました催しを実施してきたこともございまして、今後も大阪城にふさわしい大阪城ならではの魅力とにぎわいを創出することが大変重要であると考えてございます。

大阪城を核といたしまして、民間の取り組みも引き出しつつ、大阪城や大坂の陣にかかわる歴史・文化の重層性とまちの活力、また大阪人の魅力なども身近に体感できる事業を実施していくことが大切だと考えておりまして、こうした取り組みを通じ、大阪城が世界に誇ることのできる歴史観光拠点になるように努めてまいります。どうぞよろしく願いいたします。

**高野伸生委員** よろしく願いいたします。

次の質問にいきます。

南港ポートタウンのごみ管路輸送の問題について質問させていただきます。

この問題は、ことし3月の予算市会で、南港ポートタウンにおけるごみ管路輸送、いわゆる白紙撤回を決議したわけでございますが。この後、今、大阪市側と住民の皆さんとの間の協議が小康状態ということでございます。

そもそも、この問題、2点指摘しておきたいことがございます。いわゆる設備の減価償却という考え方なんですよね。いろんな建物、設備等がありますが、ポートタウンのいわゆる管路輸送につきまして、実は管路輸送設備を建設した当初に、環境局と各分譲マンションの建設事業者の間で締結されている廃棄物空気輸送施設の維持管理等に関する覚書というのがあります。この管路輸送設備を廃止する場合については、廃止する云々の条項が何もこの覚書の中にはございません。したがって、大阪市は、この覚書に従って管路輸送設備を維持管理していく義務があるというぐあいになっているんです。

それなら、設備の減価償却の考え方で、いわゆる更新費用としてどこかに積み立てられているのと違うかという疑いを私は持つておるんですけれども、その辺の解釈はどのように大阪市はなされていますか。

**村上環境局施設部建設企画課長** お答えいたします。

本市では、管路輸送設備につきましては、これまで廃棄物空気輸送施設の維持管理等に関する覚書に基づき、施設の機能保持のため、メンテナンスを行ってまいりましたが、既に竣工から約30年以上経過しており、老朽化が進んでおります。

管路輸送の運営につきましては、住民の皆様から特別に利用料などは徴収しておらず、その他の地域の普通ごみと同様、無料となっております。このため、ほかの事業と同様に、維持管理や施設の修繕、設備更新などの施設を維持管理していくために必要な経費につきましては、全て一般会計によって賄っております。

こうしたことから、当初より更新費用等の積み立ては行わず、維持管理や設備の修繕費用につきましては、必要に応じて議会の議決を経まして予算措置を行ってまいりました。以上でござ



ざいます。

**高野伸生委員** もう一点は、このポートタウンの管路輸送の問題、やはり輸送システムの一部がいわゆる民間マンションの方の所有物になっているということなんです。そして、これが廃止されますと、毎日ごみが捨てられないために、実生活の面でも大きな精神的な負担になってくる。このシステムがあるから住んでくださいということで、このポートタウンのまちづくりがなされ、そして住民の皆さんに住んでくださいということで誘致されたわけですが、全くそれをストップさせるというのも、ある意味で、いろんな市政改革プランはありますが、ちょっとえぐい話だなと私は思います。

そこで、この管路輸送の廃止は、住民の生活に大きな負担、迷惑をかける施策であるということについて、こういった認識に対して、どない思っておられますか。

**村上環境局施設部建設企画課長** お答えいたします。

昭和 50 年代に建設された当初、南港ポートタウンは計画住宅団地であり、ニュートラムの導入、緑化ネットワークやノーカーゾーンの形成などのほか、新しい都市基盤施設の一つといたしまして管路輸送施設の導入が図られました。

ごみ管路輸送施設は、当時としては画期的な施設で、毎日いつでもごみを捨てることのできる利便性と衛生的である快適な生活環境の確保に役立ってきましたが、現在のごみ減量、3R といった循環型社会の形成に向けた社会環境に合わなくなってきました。

加えまして、ごみの管路輸送設備につきましては、丁寧なメンテナンスを行うことで長期間の使用を維持してまいりましたが、既に使用期間が 30 年を超えており、設備全体の耐用時期が迫っており、その更新には莫大な費用を必要とすることからも、今後、運転を継続することは困難と考えております。

しかしながら、このような管路輸送事業の抱える課題や老朽化した施設の現状などについては、引き続き住民の皆様と情報の共有を行い、種々の選択肢の具体的な内容についてもお示ししながら、住民の皆様への十分な説明と意見交換に努めてまいりたいと考えております。以上でございます。

**高野伸生委員** 今、30 年という数字が出ましたけれどもね。それやったらそれで、その覚書のときに最初から入ってなあきませんわな。何もそんなこと書かれてないんですよ。

それと、最後にこれは指摘しておきますが、やはりこのシステムの一部が民間分譲マンションで、いわゆる区分所有者の費用負担により当初から設置されている。これが使われなくなったら、やっぱり出した分の費用を弁済してくれという話は当然起こってくるでしょう。同時に、このシステムがなくなりますと、やっぱりマンションの資産価値が下がります。こういった財

政的な問題も出てくるんです。いわゆる訴訟になってくるんじゃないかと思われるんですけども、こういった大きな問題を抱えているということを再度この委員会で指摘しておきたいと思います。

次の質問に移ります。

中学生の防災教育についてお伺いいたします。

先ほど来、加藤委員や北野委員から大阪市の防災対策について質疑がございました。喫緊の課題である津波対策、もう皆さん方もいろいろ取り組んでおられますし、また区役所、危機管理室、関係機関が連携してやっているということですが、つい先週、私の地元の南港南中学校が、土曜授業を活用して、自衛隊の方も来られて、それから消防署、そして区役所も協力のもと、地域一帯で防災のいわゆる体験学習が行われました。地域の方からは、非常に有意義な取り組みだったと聞いていますが、本市の中学校では、土曜授業を活用してこのような取り組みを行っているのはどれぐらい今ありますか、教えてください。

**黒田教育委員会事務局指導部中学校教育担当課長** お答えいたします。

今年度、土曜授業を活用しました防災学習や防災訓練を申請している中学校は19校ございまして、南港南中学校を初め14校で既に実施しております。

各中学校での取り組み内容としましては、消防署や地域防災リーダーと連携した防災学習や講話、区役所や地域、自衛隊と連携した訓練などを行っております。以上でございます。

**高野伸生委員** 私、中学生の防災教育に関心を持ったのは、実は釜石市の釜石東中学校と鶴住居小学校のこの子供たちというか、中学生が小学生の手を引っ張って高台に避難させた。奇跡的にたくさんの命が助かったと。これも年に1回、2回は必ず防災訓練をしておいたから、こういうことができたんですけれども、大阪市においても、やはり子供たちがいざというときにまずみずからの命を守るということは大事ですけれども、中学生で体が大きくなってきますと、みずからの命を守ると同時に、もし余裕があれば、大人と一緒に、いわゆる高齢者の方の避難を手伝うとか、そういうこともできないわけではないわけですから、こういう防災訓練というのは非常に大切なことだと私は思いますけれども、今後のこういった取り組みについて、教育委員会の考え方をお聞きしたいと思います。

**黒田教育委員会事務局指導部中学校教育担当課長** お答えいたします。

災害時には、みずからの命を守り、さらに他の命を守る行動がとれることが重要と認識しております。

各校におきましては、平成25年3月に改訂しました「子どもの安全を守るための防災指導の手引き」をもとに防災教育を行っております。

火災、地震、風水害、津波を想定した避難訓練を実施するなど、命のとうとさを理解し、かけがえのない自他の生命を尊重する子供の育成を図っております。

さらに、地域の特性を踏まえた防災学習や消防署等が実施しております防災研修の活用を積極的に進め、災害発生時に主体的に行動する態度を身につけることができますよう防災教育の充実に努めているところでございます。

教育委員会といたしましては、今後とも中学生が災害時に地域における自主防災組織の担い手となりますよう、区役所や危機管理室を初め関係諸機関と連携しまして防災学習や防災訓練に取り組んでまいります。以上でございます。

**高野伸生委員** よろしくお願いたします。

次に、A T Cの新たな経営計画について質問させていただきます。

A T Cは、平成6年に開業して、来年で20年を迎えます。私は、A T Cは単なる大型複合商業施設にとどまらず咲洲コスモスクエア地区の一番中核的な施設であるんじゃないかと思いますが、咲洲の活性化、活性化と言うても、やっぱりA T Cが活性化しないと、中心になるコアな部分ですから、これが活性化していないと何にもならないわけで、時々A T Cへ行っても何か一抹の寂しいものを感じるんです。

ただ、そうこうしているうちに、ちょうど1週間前です。10月29日にA T Cの新たな3カ年計画というのが発表されました。これはどんな内容ですか。

**和田経済戦略局総務部経済交流担当課長** お答えいたします。

アジア太平洋トレードセンター株式会社では、10月29日に経営改革のマスタープランと今後3カ年の経営計画を策定し、発表いたしました。この新たな計画等につきましては、ことし3月に公募を経て就任した新社長のリーダーシップのもとで策定されたものです。

新計画では、部門別管理会計の導入や定期的な施設のリニューアルにより、自立的な収益改善に取り組むこと、ファミリー層が気軽に楽しめる都心から20分で非日常的体験のできる都市型アミューズメントパークを実現することで集客を図ること、トップセールスを大いに展開し、核となる大型集客施設を初めとするリーシングの強化に努めることなどの方向性を打ち出しています。

これにより、3年後の27年度末にオフィス区画で95%、商業区画で100%の入居率などを目指すこととしております。以上です。

**高野伸生委員** 資料の配付をお願いします。

**木下誠委員長** 高野委員より、質疑の参考に資するため資料の配付の申し出がありますので、



これを許します。

**高野伸生委員** 今、新たな計画について概要をお伺いいたしました。

その前に、まず経営再建に対する事務所、ショールームなどの問い合わせも既に20件来ているということなんですが、この内容を見ますと、ハードルが非常に高いというんですか。それも3年間という限られた短い期間でこれだけのことをやってくれるんかということですか。うれしいといえば、うれしいんですが。

今お話にありました新しい社長さん、ことしの3月の株主総会で選任されて、そして取締役会で代表取締役社長に就任された加藤千速さんというんですかね。ちょっと略歴を見て、うんと思ったのは、阪急百貨店出身。先般から食品偽装の問題で話が出ていますので、これはよいほうの阪急百貨店かなと思っておりますが、実は、この社長が非常に精力的な方で、皆さんに今お配りしました3カ年計画ですね。平成24年実績の660万人の集客数を年間300万人積み上げるとのことなんです。オフィス入居率、現在82%、これを95%にすると。商業施設入居率も100%とする。100%ですよ、これ。それからATCホール、昨年が65%ですか、これを90%にする。公共展示場の活性化を図り、収入内で事業運営できるように努める。事業をさらに発展させるということなんです。

裏のページを見ていただいたらわかりますが、どういうことを主にやって3カ年でこういうことができるのかということについていろいろ伺いましたら、ITM棟にあります、今2、3、4、5階の大型集客施設マーレ、これを集約化して新たなテナントを入れていくと。それから、今までクリニックとかそういうところはなかったんですが、これは港湾局と地区計画の変更を行い、クリニックとか専門学校等は入れていくということですね。それから保育所も誘致すると。

それと、特にもう一点、今、担当局から説明がありましたいわゆる子供を中心とするアミューズメント型パークのようなものを誘致する。これはかなり話が具体的に進んでいるというふうに聞いておりますが、そういうことによって、こういう結果ができるということなんですけれども、この25年、26年、27年の売り上げを見れば、そんなに大きな営業収入は上がっていませんけれども、これは半分、今テナントとして入居している大阪市ですね。今答弁されている経済戦略局とか、港湾も入っているんですかね、建設も、そういう局の家賃を、先般、家賃減額いたしましたので、この収入と相殺されている部分があるんですけれども、いずれにしろ営業収入は右肩上がりに上がっていくということです。

一番のポイントは、この数字の資金計画のところに支出項目がありまして、ちょっと網かけているところに、積極的投資6億6,300万円とありますが、実は3カ年で6億6,300万円を投資していくと。今まで投資というのはほとんどなかったらしいんです。というのは、いわゆる特別調定を結んでから、借入金を毎年毎年返済していかなあかんのですけれども、まず、現在、金融機関への借入金の返済状況はどないなっていますか。

**和田経済戦略局総務部経済交流担当課長** お答えいたします。

平成16年の特定調定成立により、金融機関に対する残債務は401億円となりました。その後、再建計画に従って元金返済を着実に進めており、平成24年度末現在の残債務は251億円となっています。当初の計画どおり、平成45年度末に完済予定となっています。

この間、毎年の元金返済額は約10億円ですが、一部融資について再建計画どおり返済完了となったことから、今年度より年間の元金返済額が約11億円となっています。以上です。

**高野伸生委員** 今の御答弁では、返済計画自体は順調に進んでいるということだと思います。

そこで、計画どおりに再建しつつあるんですけれども、ATCをいわゆる関西イノベーション国際戦略総合特区としての取り組みにも拍車をかけていただきたいと思います。

そこで、同社の今の新たな経営計画に基づくさまざまなサポートがあると思うんですけれども、いわゆる大阪市として、この経営計画に対する評価、並びに所管局としてサポートをどうしていただけるのかという、その見解をお伺いしたいと思います。

**井上経済戦略局長** お答えいたします。

新たな経営計画、マスタープラン及び3カ年経営計画では、オフィス棟のリーシング強化や大幅なコスト削減により、先ほど委員が御指摘されました約6億6,000万円を生み出し、施設のリニューアルなどの積極的投資を行っていくこととしています。

これにより、新たなテナント誘致や集客の増加が期待でき、いわば攻めの経営に踏み出したことを本市としても評価しております。

本市としては、これまでどおり確実な債務返済と自立化に向けた経営の監視を着実に行うとともに、新社長を筆頭に同社が一丸となって経営改革及び新たな経営改革を遂行していけるようバックアップしてまいりたいと考えております。

既に取り組みも進められており、社長みずから日々トップセールスを展開するほか、迅速な意思決定ができるよう組織体制の見直しも行ったところであります。

本市といたしましては、ATCを初めとする咲洲のにぎわいづくりに努めてまいります。例えば先週末の3連休には、ATCや周辺企業、住之江区とともに、親子イベント「咲洲こどもフェスタ」を開催し、速報値ではありますが、ATCだけでも10万人近くの来場者がございました。このほか、地区計画等の一部変更に取り組むほか、関西イノベーション国際戦略総合特区の指定を国から受けるなど、同地区における事業環境の整備も進めてまいります。

ATCに入居するインキュベーション施設や展示ブースなどの本市の産業振興施設の活用なども促進しながら、ATCが地区の中核的施設として役割を果たせるよう、所管局として全力でサポートしてまいります。よろしく申し上げます。

**高野伸生委員** 井上新局長、多分局長の考え方と社長の考え方、ほとんど一緒やと思います。民間の力をぜひA T Cの再生に向けて頑張ってくださいようによろしくお願いします。

最後の質問です。港湾局にお尋ねいたします。

今、A T Cの話をしたんですけれども、一番最初に質問させてもらったのが大阪城ということで、実は昔、關市長の時代に、大阪の縦軸、横軸を充実させていくという話がありました。何かしばらく、この10年ほど、その話がどっかへ消えてもうたような感じがするんです。確かに、縦軸は今、梅田のグランフロントもできましたし、またミナミ、阿倍野のハルカスなんかも再開発されてきて、しっかりしてきている。より充実してきているんじゃないかと思えます。

ところが、横軸はどうでしょうか。大阪城は、まだもっともっとやんなあかんことあると思うんです。それから水都大阪、そして、やっぱり咲洲、夢洲のいわゆる臨海地区です。これを軸をしっかりするためには、やっぱり端っこにある今のA T Cも活性化してもらわなあかんし、大阪城ももっと魅力向上して、いわゆる観光客をふやす。あるいは、市民の皆さんに親んでもらうということが大事じゃないか。これが、大阪の元気アップがさらに深まる大きな要因だと思います。

そのためにも、東西軸に関連するのが咲洲トンネル、この交通、長い間ずっと有料化で、今無料化の話になっているんですけれども、トンネルの無料化につきましては、ことし3月の予算市会でも私は質疑させていただきました。24年度に実施した社会実験の結果についてもお聞きしましたが、その際、港湾局から、平日のトンネル利用台数は全車種で約23%の増加、大型車で28%増加という答弁いただきました。

既に、ことし10月から土日祝の無料化が本格実施されましたけれども、その結果、トンネルの利用台数はどのようにふえているか教えてください。

**松井港湾局営業推進室開発調整担当課長兼経済戦略局企業立地部夢洲・咲洲地区調整担当課長** お答えいたします。

咲洲トンネルの土日祝日無料化につきましては、10月5日の土曜日から本格実施をスタートしており、10月1カ月間の土日祝日のトンネル平均利用台数は1日当たり約9,700台でございました。無料化実施前のことし9月の土日祝日は1日当たり約8,400台、昨年10月の土日祝日も1日当たり約8,400台が咲洲トンネルを利用しており、対前月比、対前年同月比とも約16%の増加となっております。

**高野伸生委員** トンネルの土日祝日無料化によって利用台数はふえているとのことですが、これによって咲洲の利便性が高まり、地区の活性化にも一定寄与していくということでありませう。

企業が立地する夢洲、咲洲を結ぶ夢咲トンネルは、開通最初から無料なんですよね。市民も住んでいる咲洲と港区を結ぶ咲洲トンネル、これは最初から有料だったんですが、これだけ考えても、もともと不公平な話です。今申し上げましたように東西軸をさらに充実させ、そして咲洲地区を活性化させるためには、ぜひとも交通アクセスの改善が必要なんです。

いろいろ今、大阪府と調整されていると聞いていますけれども、この費用というのは、もともと港湾局の一般会計で管理費が出されているんですけれども、全面無料化するとすると、港湾局の管理費増が3億5,500万円になるということを知っています。3億5,500万円、なぜすぐできないのかなと思うんです。さっきATCで6億6,000万円、毎年これから出して活性化していくと。一つの会社でそういうぐあいにやるというてるのに、何で活性化を助けるために3億5,500万円が出せないのか、私は不思議でならないんですよ。松井知事と市長がどうも協議されているそうなんですけれども。

田中副市長、どうもありがとうございます。

どないですかね。これ全面無料化、来年26年度からやるという方針は決まっているそうなんですけれども、もう4月からぜひ全面無料化を始めてもらいたいと思いますが、いかがですか。

**田中副市長** お答え申し上げます。

咲洲コスモスクエア地区につきましては、咲洲トンネルの無料化に向けた取り組みとともに、企業誘致のための地方税優遇措置の設定、あるいは地区の活性化に寄与する利便機能等の導入などに向けまして、臨港地区等地区計画の変更手続を今進めているところでございます。これらによりまして、企業進出や開発促進につながる環境が整い、地区の活性化が進んでいくものと考えております。

お尋ねの咲洲トンネルの無料化でございます。ことしの10月から集客に即効性のある土日祝日の無料化を実施しているところであり、現在、平日も含めました全面無料化の実現に向けまして、大阪府とも鋭意調整しているところでございます。

今後、企業の集積や来訪者の増加などにより、咲洲コスモスクエア地区の活性化や土地利用を推進していくためには、咲洲トンネルの全面無料化の早期実現が必要であると考えており、平成26年度中には全面無料化が実施できるよう取り組んでまいり所存でございます。よろしくお願い申し上げます。

**高野伸生委員** 平成26年4月から全面無料化できる。あるいは、平成27年3月に無料化が始まっても、ほぼ1年間のどの時期で始まっても、結局26年度にやったという結果となるんですけれども、やっぱりこの1年間というのは大きいんです。やっぱり頭から、4月からやってもらわないと。

いつも、松井知事と橋下市長、この2人が、スピーディーに物事決めるようになって大阪は

ようなるんやと常に言うてはるのに、どうも府のほうが負担するのを嫌がってるのか何か知りませんけれども、もしそうであれば、やっぱり大阪市がもう先に全額この管理費用を持つという決断をしていただかなければ、なかなかこの話は前へ進まないと思います。ぜひ、この早期実現をお願い申し上げまして、私の質疑を終わらせていただきます。ありがとうございました。

**木下誠委員長** 高野委員の質疑は以上で終了いたしました。